

3 巡目 第3回

四国あるき 遍路の旅



3日目出立の朝
蔵空間「茶館」前にて

平成29年11月17日～19日
臨済宗妙心寺派 圓福寺

Title : 22番平等寺へ

Date : 2017/11/17



桑野駅に降り立つ

第2回で21番太龍寺の麓からバスに乗ってたどり着いたのが、桑野駅でした。今回の旅は、その桑野駅に降り立ってからのはじまりです。駅を思い出せない人には、ほら、電車の待ち時間に、この駅前で体操なんかしたでしょ、といえは思い出すでしょうか？

駅前のバス停からバスに揺られて山を駆け上り、阿瀬比バス停から歩き始めることにしました。初日、電車やバスでの移動が多い旅程の中で、ここから22番平等寺までの峠越えが貴重な歩きとなります。その距離、約5km。

絵にかいたようなへんろ道

阿瀬比バス停から里山のすそ野を歩き、いよいよ山中に足を踏み入れます。台風が多かったにもかかわらず、山中のへんろ道はきれいです。秋のへんろは、台風の多少にかかわらず、枯れ枝が落ちていたり、落ち葉が道の石ころを隠していたりするのが常ですが、きつとどなたかがへんろ道をきれいにしてくれているのだと思います。そのおかげで、平等寺へのへんろ道は、写真のように、絵にかいたようなへんろ道でした。

里山というのは、人の手が加えられた自然のことを言うのだそうですが、こんなへんろ道は、里道というのかもしれませんが。ただし、竹林だけはいのししの被害と、タケノコ農家が離農したせいで、荒れに荒れていました。1巡目の時には、途中の竹林は、見事な美林だったのですが、もはや見る影はありませんでした。



Title : 22番平等寺

Date : 2017/11/17



さむざむ

平等寺という、いつも寒々とした印象があるのはどうしてなのか？

山門をくぐっても人っ子一人見当たらず、山門前の石段の広々とした感じ、境内に大きな樹木があるわけでもなく、石畳の参道の周りに砂利が敷きつめられ、どことなく寒々しいのです。とはいえ、境内のベンチを拝借してお弁当を広げられたのだから、本当に寒かったわけではありません。

とはいえ、今回最初の札所を、無事お参りすることができました。

旅の記録

	期日	曜日	コ ー ス 予 定						食事・宿泊
1	11月17日	金	6:30 羽田空港集合	7:10発 羽田空港	JAL453	8:30着 徳島空港	8:40発	【歩く距離】約8.8km	屋食は各自、徳島駅などでお買い求め下さい。
			【空港リムジンバス】9:20着	9:51発	《JR牟岐線》 特急「むろと1号」	10:25着 JR桑野駅	10:30発		
			一徒歩— ちょっと	10:35着 桑野上バス停	10:36発	【徳島バス】 阿瀬比バス停	10:46着 阿瀬比バス停	10:50発	
			一徒歩— 約5.0km	12:20着 22番平等寺	13:10発	一徒歩— 2.2km	13:40着 新野駅	13:51発	
			《JR牟岐線》	14:13着 日和佐駅	14:15発	一徒歩— 約0.8km	14:30着 23番薬王寺	15:00発	
			一徒歩— 約0.8km	15:20着 日和佐駅	15:45発	《JR牟岐線》 海部駅乗換	16:35着 【送迎バス】 甲浦駅		宿泊：民宿「竹ヶ島」 徳島県海部郡海陽町穴喰浦字竹ヶ島 0884-76-3657
			17:00着 民宿「竹ヶ島」着、宿泊						
2	11月18日	土	7:15発 民宿「竹ヶ島」	【送迎バス】 約3.0km	7:41発 白浜バス停	【高知東部交通】 バス	8:30着 杉山明星前バス停	一徒歩— 約0.7km	【歩く距離】約15.9km
			9:00着	9:30発	一徒歩— 約6.5km	11:00着	11:30発	一徒歩— 約0.1km	屋食は、津照寺門前「花月」
			24番最御崎寺			25番津照寺			
			料亭「花月」で昼食	12:30発	一徒歩— 約3.8km	13:45着	14:15発	一徒歩— 約1.6km	宿泊：蔵空間「茶館」 室戸市吉良川町甲2234 0887-25-3700
			15:00着 杉山明星前	一徒歩— 約3.2km	16:00着 蔵空間「茶館」				
3	11月19日	日	7:50発 吉良川屋前バス停	【高知東部交通】 8:22着	8:45発	一徒歩— 約8.0km	11:15着	27番神峰寺	【歩く距離】約12.0km
			一徒歩— 約4.0km	12:00発	一徒歩— 約4.0km	13:00着	13:08発	《土佐くろしお鉄道》 後免町駅	朝食は宿。パンだそうです。 屋食は、安田でバスを降りてから、「輝るぼーと安田」で各自ご購入下さい。
			27番神峰寺						
			【タクシー】 歴史民俗資料館	15:30着	特別展「今を生きる禅文化」観覧	高知県立歴史民俗資料館拝観後、自由時間とします。			
			19:25発 高知龍馬空港	JAL498	20:45着 羽田空港				【歩いた距離】約36.7km

Title : 23番薬王寺

Date : 2017/11/17



薬王寺の「瑜祇塔」前にて

寄り道になった薬王寺

今回は、平等寺の最寄駅から電車に乗って、日和佐まで一気に移動する旅程ですが、2巡目では、途中の木岐駅で降りて、山座峠越えのへんろ道でした。国民宿舎うみがめ荘に泊まって、翌日薬王寺にお参りしたのですが、今回は薬王寺をお参りして再び電車に乗ることにしたので、ちょっと寄り道してお参りという感じで、薬王寺さんには少し後ろめたさを感じました。

日和佐の駅を降りると、右の手の山の中腹に独特の形をした「瑜祇塔（ゆぎとう）」といわれる塔が見えます。この塔が目に入ると、ああ日和佐に来たなあと思うほど、シンボルになっています。近代的と思いきや、昭和38年に建てられたというから驚く。この塔に上って海の方を眺めると、港から一直線に薬王寺を目指す道があり、往時のへんろたちはこの門前の道を歩いて薬王寺にたどり着いたのだらうと、またまた途中下車してのお参りに気が引ける。

とはいえ、門前の道もシャッター通りと化しているように見え、途中下車へんろもまた、時代の流れかと自らを慰めた薬王寺でした。



次の札所まで90キロ

日和佐駅から薬王寺に行く途中にあった、四国の道のみちしるべ。室戸の24番最御崎寺まで、90kmと書いてあります。

不許酒肉五辛入界内

「酒肉五辛、内に入界を許さず。」と読むのだと思いますが、よく見るのは「不許葷酒入山門」、五辛はニラ・ネギ・ニンニク・サンショ・ラッキョウの五つで、修行の妨げになる刺激の強い食べ物を持ち込んではいけなく、厳格な修行の場であることを宣言している石柱でした。



Title : 民宿「竹ヶ島」

Date : 2017/11/17



民宿「竹ヶ島」は、四国有数のサーフィンのメッカ、生見に近く、おじさんサーファーがよく泊まりに来るのだそうです。また、ご主人がプロゴルファーのジャンボ尾崎と同じ学校だったので、よく遊びにくるとのこと。食堂には、ジャンボ尾崎の写真が所狭しと飾ってありました。

夕食の飲み物に、栗焼酎「ダバダ」を頼んで、二日目の天気と無事を祈ることにしました。残しても持ち歩くことは困難とばかりに、一本ぺろりと平らげたわけですが、翌朝、出発に際し、おかみさんから「ダバダ」の一升瓶をお接待でいただき、ペットボトルに分けたものの、結局は持ち歩くことになってしまいました。ありがたや、ありがたや。

四国と言えば、栗焼酎

日和佐駅からJR牟岐線で海部駅。海部駅で総延長8.5kmの私鉄阿佐海岸鉄道に乗り換えて、終着の甲浦（かんのうら）駅下車。いよいよ高知県に足を踏み入れました。民宿のおかみさん運転の迎えの車に乗り込むと、竹ヶ島は徳島県なのだと説明をしてもらう。

ちょっと休憩

なんのグループ写真？

背景にお寺の建物もなく、これで白装束の雨海さんと平山さん、そして雲水姿の住職がいなかったら、なんのグループは判別はむずかしいそうです。この写真を見て、どこで撮ったかわかりますか？答えは、神峰寺大師堂前です。



うまそうなトンカツ？

トンカツを形容するときに、「わらじのような」と言いますが、この写真は正真正銘の「わらじ」の写真です。雨の山道も歩きましたから、こんなトンカツみたいな色になってしまいました。

わらじの裏には、行く先々の土や砂などが入り込んでいます。とって、洗い流す気にはなれません。全国あちこちのお寺に、四国八十八か所のお砂踏みの場所がありますが、これは自ら歩いてわらじの間にお砂を踏んだものです。このわらじの砂を入れたお守りを作って、足腰健康のお守り売り出したら売れるかもしれません。

Title : 24番最御崎寺

Date : 2017/11/18



最御崎寺に着いたところが、雨のピーク。デジカメの写真にも、雨脚がはっきり写っているほどです。

最御崎寺からのくだりの写真をよく見てください。室戸に向かうバスからの写真を左右反転したような景色は、室戸岬の西側に出てきた証拠です。

室戸岬町の町はずれに、「山田邸前」というバス停があるのに気づきましたか？かつて盛んだったくじら漁の網元、山田さんのお屋敷前です。そういえば、旧道に面して巨石で作られた石垣が100m以上続いていました。

恒例の雨

2日目は、朝から本降りの雨。やはり、3日間の歩き遍路の間、1日ぐらいは雨が降らないと拍子抜けします。

バスのフロントガラス越しの景色は、右から山が迫り、わずかな平地は車道となり、左側海岸線。この景色が、室戸まで続きます。

岬の手前でバスを降りて、まずは弘法大師が修行したと伝えられる「御厨人窟（みくろど）」に向かったのですが、落石のため洞の中には入れなくなっていました。少し雨宿りできると思ったのに、残念。

本降りの中を24番最御崎寺を目指して、山道を登るのですが、まだ朝なのにうっそうと照葉樹が茂った遍路道は、夕暮れ時を思わせるほどの薄暗さでした。

津照寺の記憶?！、いえ記録がありません。

人は、本当につらい時や苦しい時には、写真を撮ったりする余裕もなくなるようです。ずーっと雨の中を歩いて、やっとたどり着いた25番津照寺の写真は、だれのカメラにも残っていなかったようです。

高級ひるめしのいいわけ

特にグルメ情報を仕入れたわけではありません。お昼時にお参りを終える25番津照寺の近くにご飯が食べられるところがあればと思って探し当てたのが、料亭花月でした。しかも、情報によれば1,000円からとなっていたので席だけ予約したのです。出発の数日前に、人数が多いので食事も頼んでおこうと連絡したら、キンメ丼がおすすめとのこと。値段を聞くと、1,600円！ 圓福寺歩き遍路史上最高値の昼食。でも、この際、津照寺の高台から飛び降りるつもりでと、予約したのです。ちなみに、最安値の昼食は、宿で握ってくれたおにぎり、なんと2個140円だった記憶があります。



夜ならお忍びで料亭に来たカップルかとみられなくもないですが、リュックに合羽では、お忍びじゃありませんね。

料亭花月の「キンメ丼」

西日本で食べられる金目鯛の8割は室戸で水揚げされるそうで、その金目鯛を使った名物料理です。金目鯛の煮付けと地元の新鮮な刺身を使った丼で、食べ方は、まずはそのまま、そして次に薬味を乗せて、最後に金目鯛から取った出汁でお茶漬け風にと三つの味を楽しめました。

なにより、土砂降りの中を歩いた私たちには、格別なごほうびとなりました。



26番金剛頂寺

民宿「うらしま」からの登りがすこしきついていたのに、国道55号のキラメッセ室戸に一気に下る道の方がきつく感じられたのは、私だけでしょうか。前回から8年経過して、うらしま太郎になったわけではありませんが・・・。

この下りは、3巡目にして初めて歩く道だったと思います。キラメッセ室戸で食べた、ソフトクリームがおいしかったですね。



Title : 蔵空間「茶館」

Date : 2017/11/18

古民家遍路宿

3日目の安田から神峰寺へのへんろ古道に行くにあたって、ようやく見つけたのが、今回お世話になった「蔵空間・茶館」さん。

ご夫婦二人で営む遍路宿に、遍路だから、雨露さえしのげれば、雑魚寝でも、夕食はお弁当でもと頼み込んで12名の歩き遍路が泊まらせていただきました。

門をくぐったとたんに、往時の歩き遍路になった気分で、昔、宿の困ったへんろが善根宿に泊まらせてもらった時は、こんな気持ちだったのだろうと思いはせることができました。



縁は異なるもの

かつて土佐備長炭を商っていた商家。それ以前は薪を商っていたそうです。そこに紀州から遍路でやってきた炭職人が、良質なウバメガシを見て、木炭の製造法を伝えたことで土佐備長炭が生まれたといえます。

お大師さんが炭作りを教えたと言わないところが、なんと真実味が

あっていいですね。

炭に限らず、魚とりの方法や農作業、食文化などお遍路さんが伝えたことも多いんでしょうねえ。

それもご縁ですが、ご主人と話をするうち、奥さんは新潟市の生まれとのこと、しかも尚美さんと同じ年というではありませんか。これもご縁ですよええ。

【右中の写真】蔵を改造した食事処で、夕食をいただく。このあと、ご夫婦のライブを聞かせていただきました。

Title : 27番神峰寺

Date : 2017/11/19



ひやり、路線バスの旅（その2）

茶館のご夫婦に見送られて、吉良川のバス停で待っていると、目の前を時刻通りの路線バスが猛スピードで通り過ぎてしまいました。これは、路線バスの乗車拒否!? どうしたものか思案していると、くだんのバスが戻ってきて、無事乗車することができました。なんと、前回に続いて、「ひやり、路線バスの旅」でした。

おそらく、歩き遍路の団体だと思って、バスには乗らないだろうと思ったのでしょう。2度あることは3度ある、バスならいいですが、飛行機だと帰れなくなってしまう。



【上】「輝るぼーと安田」で昼飯を仕入れる。買い物中に、忘れ物をした雨海さんも合流。

【中右】へんろ古道から安田の町が望めました。【中左】荒れ放題のへんろ古道。秋に台風が多かったこともありましたが、歩き遍路もほとんど通っていない様子です。時間とともに、へんろ古道も消滅していくのかもしれない。

【右】神峰寺大師堂前で昼食。昨日だったら、こんなふうにはできませんでした。2巡目の時は雨だったので、お寺の軒下で立ったままの昼食だったことを思い出します。



Title : 歩きのスナップ

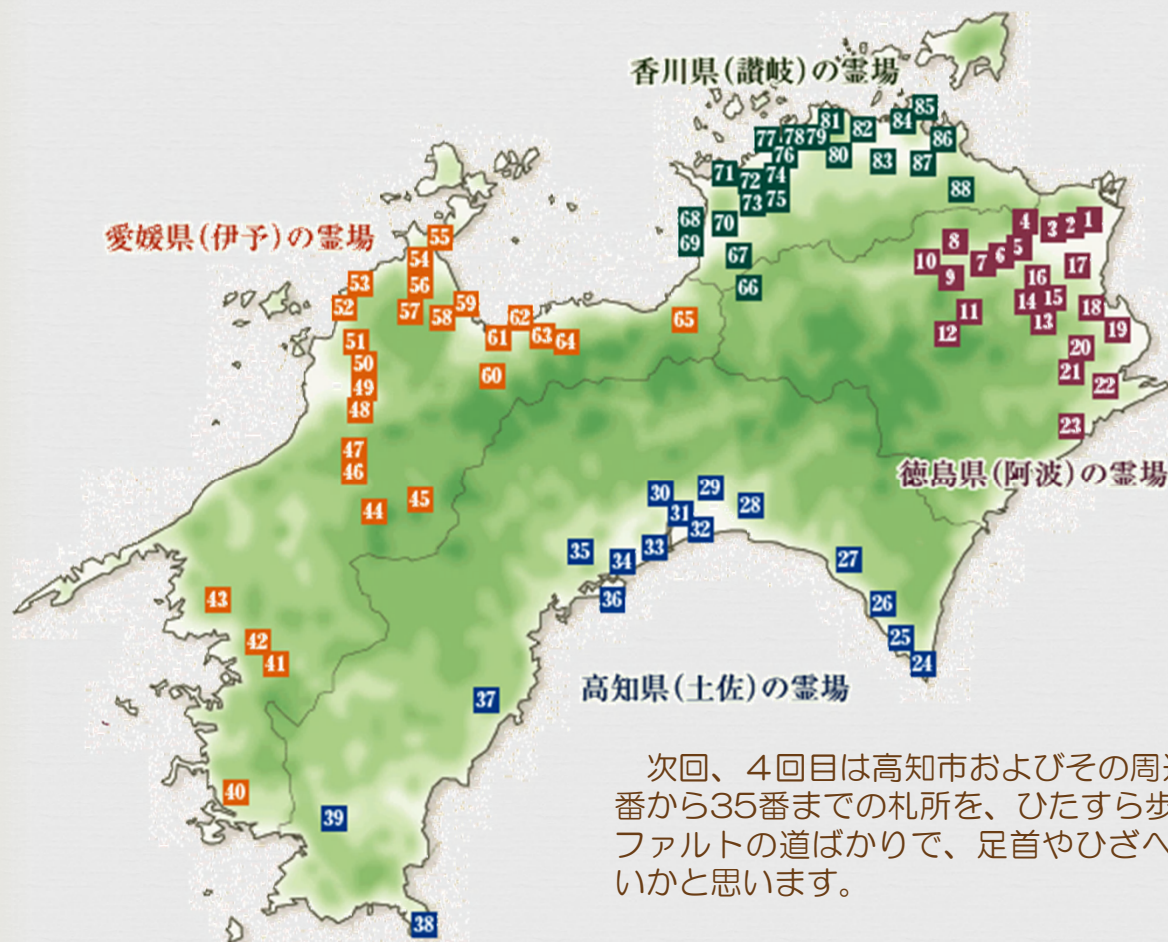
Date : 2017/11/17~19



四国あるき遍路というだけあって、「歩いた」というのがわかる写真だけ集めてみました。里山風景の中、山の中、竹林の中、そして土砂降りの札所、今回もよく歩きました。



次回の予定 2018/02/23～02/25



次回、4回目は高知市およびその周辺の平地、28番から35番までの札所を、ひたすら歩きます。アスファルトの道ばかりで、足首やひざへの負担が大きいかと思います。



あとかき

ついこの間歩いたと思ったら、もう師走になってしまいました。

歳末ボランティアまでに寺報の印刷製本を終えなければなりません。その前にこの記録写真集をまとめなければと思い、例年通りの忙しさの合間を縫ってちょこちょこ編集した写真集です。

写真は、主に田中さんと西川さんが撮影したものを使わせていただきました。とはいえ、本当にきついところ、本当に楽しくて盛り上がったところは、ご自身のことで精一杯だっ

たのだと、写真を探しながら思いました。それが当たり前ですよ、今はやりのインスタ映えなんていう年代ではありませんから・・・。

大切なのは自らの体験、自らの舌で味わうこと、自らの足で歩くこと、自らの体で寒さを感じる・・・、それを写真に撮ることで満足してはいけません。自らの頭に記憶させることで、ポケ防止にも一役かかもしれません。

この写真集をご笑覧の上、次回への期待と準備をよろしくお願いいたします。

住職手作りのわらじです。3回目でこんな感じになります。さて、何回目まで使えるでしょうか？



圓福寺 四国あるき遍路の旅
3巡目第3回写真集



平成29年11月17日～19日